

【山崎主宰の俳句】

九条

山崎 聰

今生を蝶一頭の真昼かな
空へ放つ一語また一語薄暑
桐の花肩叩かれて振り返る
緑蔭のあかるいところにておわる
立正安国論橡の花二三
赤のまま隊列音たてて通る
父の日の水のような父といふ
九条に遠くままこのしりぬぐい
夏至の雨うみやますでに失せてなお
雲の峰考えて考えて黙る